

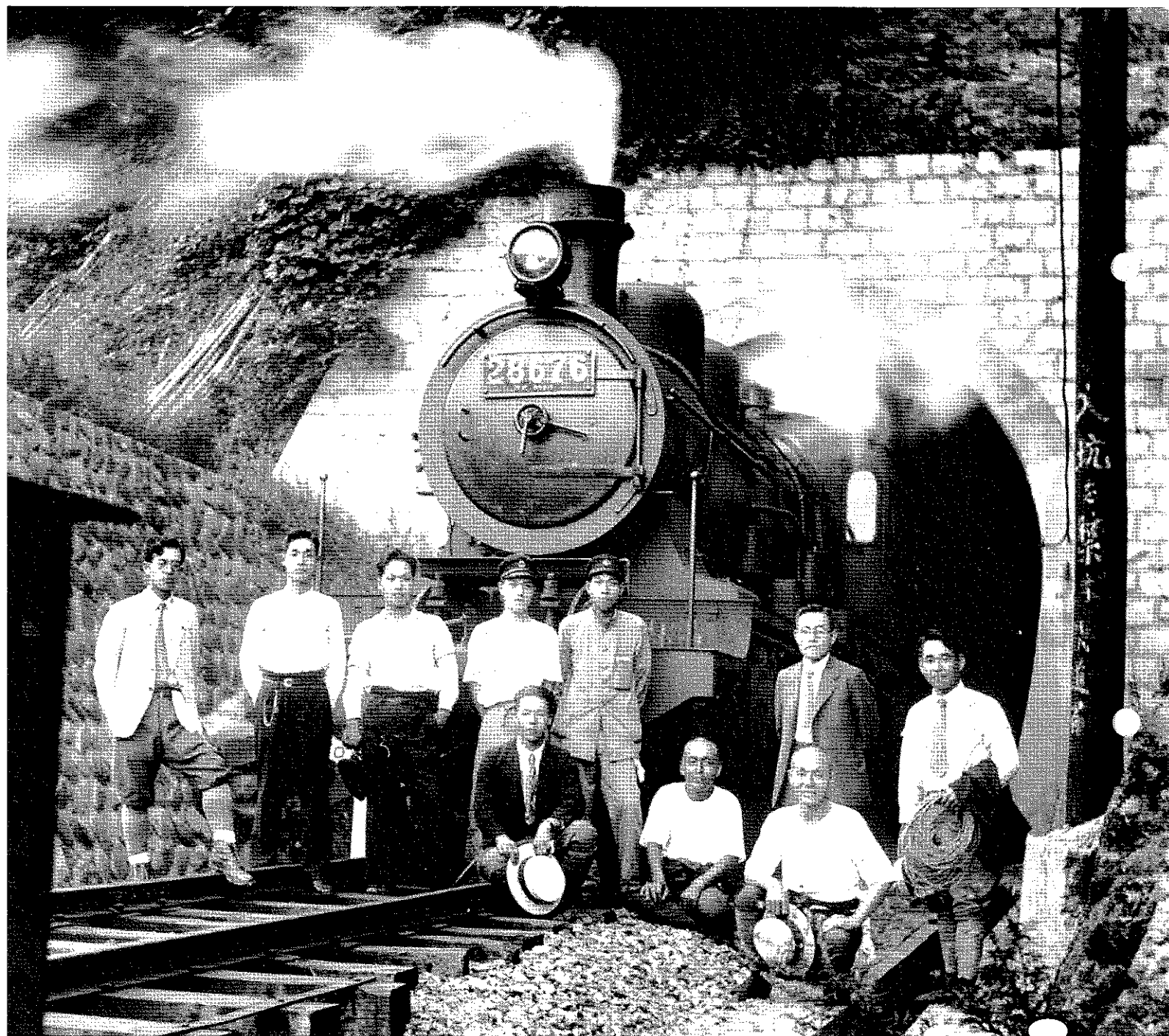
ちづ 議会だより



鳥取県智頭町議会

第123号

発行：平成25年7月22日



☆ 7名の議員が町政について質問 … P2~5

☆ 議会報告会を開催 … P5~7

☆ 7月29日で今議会任期満了、議長あいさつ … P8

☆ 編集後記

表紙の写真

当時世界最高水準の鉄道技術で造られた物見トンネル。昭和7年に因美線 鳥取～津山間が全線開通した。

写真の場所：物見トンネル河津原入り口
写真提供：智頭町教育委員会



石谷 政輝

未満児を家庭で安心して育てられる支援を

答 保育料の引き下げで支援に努める

問 育児休業から復帰できる職もあれば、産後に小さな子どもを抱えて職探しに苦労される方も多い。未満児で保育園に預けパートで得た収入はわずかしかなかった。その分を支援することができないか。

答 育児休業から復帰できる職もあれば、産後に小さな子どもを抱えて職探しに苦労される方も多い。未満児で保育園に預けパートで得た収入はわずかしかなかった。その分を支援することができないか。



答 教育長 金銭的な支援

問 荒廃する山林と法面など、危険箇所をいくつも目にするが、この現状を把握し、順次直していく予定はあるのか。

答 町長 荒廃した山林では機能が低下し山崩れが発生する原因となっているが、防災というテーマでこれまで以上に県と相談しながらスピードをあげていきたい。

問 納税時の行政の勘違い、行き違い時の職員の対応で、行政不信にもつながることもある。相手の立場に立ち、誠意をあらわしていただきたいがどう考えるか。

答 町長 町民あつての行政。信頼関係で成り立っていると考えている。職員にも注意深くチェックしてから対応させてはいるが、納税者には行き違いをなくすためにも期限内の納付をお願いした考えはない。

問 火災時における水不足による不安の声がある。それぞれの集落にあった町からの協力体制は。

答 町長 集落によって対応が全然変わってくるが、できる限り集落に喜んでもらえるように、法的なものをクリアしながら最高な状況をつくりあげたい。



安住 仁志

看護師を副院長に登用し改革推進を

答 登用することは考えていない

問 医療は医師と看護師の共同作業である。病院で働く職員の60%は看護師である。医師は一つの科に生きていることが多いが、看護師はいろんな科を回りながら多くの経験を積むので、病院全体をすみずみまで知っており、各診療科を客観的に評価する能力が身に

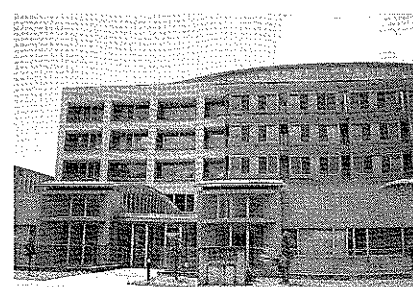
答 ついていくと聞く。このような特性を持つ看護師を副院長に登用した病院では看護師の「やる気」が増進し、住民・患者の信頼および評価が向上したと報告されている。その成果として医療の質の向上と医療収益も改善したことも、また同時に報告されている。

問 加えて、看護師副院長誕生の副産物として、看護師の募集にも好評であり、男女共同参画社会の実現にも役かっている。病院改革にいろいろ尽力していることは承知しているが、看護師を副院長に登用することを重ねて提案する。

答 病院事業管理者 全国には数あると聞くが、県内では現在発令されておらず、当院でも登用する考えはない。

問 災害備蓄の整備状況および検証のあり方について問う。

答 町長 鳥取県では「県および市町村の備蓄に関する連携体制整備要領」が制定され、品目と必要量が規定されている。この基準に基づいて必要量600人の1日分を3カ所に備蓄している。また、智頭町社会福祉



智頭病院



谷口 雅人

町誌編さんの充実強化を

答 時期を見て「新・智頭町誌」発刊の運びに

問 編さんの現場は、膨大な資料と限られたマンパワーで要望にこたえきれない感じが、時間との闘い。町の輝きを増すものの一つとして町誌編さんの充実強化を。

答 町長 平成6年に町史編さん委員会を発足、12年に「智頭町誌」を発刊、以降新資料が続々加わり、まだ先になるが時を見て「新・智頭町誌」を発刊の運びにしたい。新しい分野の切り口の質問を真摯に受け止めたい。

問 荒廃農地対策と大型農家育成の連携強化を。荒廃農地復元にとどまらず、その農地を集積し

答 町長 総合計画にある「男女共同参画社会」の実現に向けての質問をした。



進行する農地の荒廃

大型農家を育成する必要がある。農地を保有する農家が農作業から身を引く現状から、農機の更新による支出を削減、可処分所得の増加により農家の共倒れ防止を積極的に。

答 町長 耕作放棄地再生事業を予算化、集落営農バックアップ補助金を穂見、坂原集落に支援するなど農地の集積、大型農家育成につなげたい。

問 林業再生の対策は。役場内部の再編により再生元年と受け止めた。林業が目の目を見る、いつかその日までくじけてしまわないためにこれから先がある意味正念場である。対策は。

答 町長 林業を取り巻く環境は厳しく、産業としての林業は疲弊している。一足飛びに林業を再生できる対策はない。智頭材が智頭材らしく出荷できるまで現在行っている作業道の整備、間伐等を辛抱強く推進する。

答 町長 林業を取り巻く環境は厳しく、産業としての林業は疲弊している。一足飛びに林業を再生できる対策はない。智頭材が智頭材らしく出荷できるまで現在行っている作業道の整備、間伐等を辛抱強く推進する。



平尾 節世

総合計画にあるバリアフリーの図書館の検討は

答 平成28年度建設に向かっていきたい

問 読書は想像力や知識を高めるなど、人間形成に大きな役割を果たす。第6次智頭町総合計画では、新図書館について25年度には、図書館建設検討委員会を設置するとなっている。町民の誰もが気軽に利用できるバリアフリーの図書館の検討は進められているか。

答 教育長 基本計画にあった図書館を総合センター1階に移すという提案は、建物の老朽化により無理と聞いている。現在、検討委員会は設置していないが、今年度中にその問題を検討し、平成28年度を目途に図書館を建設することに向かっていきたい。

問 小学校改築に続き、中学校建設、保育園の一元化も視野に入っている。現在、総合計画どおりに28年度に建設できるのか非常に危惧しているが。

答 町長 総合計画に載せているので無視しておくつもりはない。図書館問題を重要な位置づけとし、25年度に検討委員会を立ち上げ、スケジュールどおりに進めていきたい。

問 図書館の本を地区公民館の図書コーナーへ貸し出されている。とても良いシステムなので、告知端末で放送するなど町民への周知方法をもっと考えてはどうか。

答 教育長 2ヶ月に一度100冊くらいの本の入れ替えをしている。利用促進の広報を充実していく、図書館建設の機運向上にもつなげていきたい。



バリアフリーではない智頭図書館



岸本 眞一郎

智頭町観光協会の突然の組織変更はなぜか

答 変革をする時には勇気を出して

問 3月定例会閉会からわずか1週間後の3月28日に智頭町観光協会の理事会が開かれた。そこで町長は、「新制観光協会を実現するために、ここで理事の皆さんと事業を一旦リセットしてゼロからのスタートを切りたいと考える」との発言をしているが、なぜこのこと

答 町長 唐突ではないかということだが、言われるように、確かにベタ1であったとは思わない。変革をする時には勇気を出さなきゃならない

を予算審議時に説明しなかったのか、その理由や発言の意図は何だったのかを問う。



智頭観光協会

うことで、私の全責任でそういう体制を作ることにした。

問 住宅新築資金にかかわる貸付金償還に伴う借受人や保証人の高齢化が進み、今後混乱が予想される。現状の貸付償還金滞納処理規則等の変更や見直しをするつもりはな

いか。
答 税務住民課長 現状においては条例・規則を

変える必要はないが、議員が質問されたように、突然請求が届くと言うことにもなりかねない現状

法を導入され、効果を上げています。
バランススコアカードとは、ビジョンと戦略を明確にし、4つの視点(財務の視点・顧客の視点・業務プロセスの視点・人材の視点)でまとめていくという考えだ。

智頭病院改革プランの現状は

答 増収を図っている



中野 ゆかり

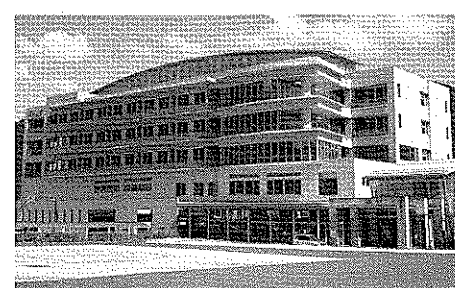
問 智頭町及び近隣の市町村の人口が減少し、智頭病院の外来患者数や入院患者数も減少傾向にあり、病院経営が厳しくなることが予想される。現在の医業収益の現状分析と、増収につなげるための方策を問う。

答 病院事業管理者 智

頭病院改革プランに沿って努力している。医師の退職に伴い医業収益が減少しているが、医師確保に向けて市立病院、岩美病院とも連携を進めている。その他の事項については、ダイケアの受け入れ定員を20人から25人に増員し、祝日も運営するなど、より利用しやすい在

問 智頭病院改革プランが現在着実に実行できているが、病床数を変更したり、その他の策により交付税を上げる手法には限界があると思う。そこで、バランススコアカードという手法を実践してどうか。企業はもちろん、自治体や三重県の県営病院でもこの手

法が導入され、効果を上げています。
バランススコアカードとは、ビジョンと戦略を明確にし、4つの視点(財務の視点・顧客の視点・業務プロセスの視点・人材の視点)でまとめていくという考えだ。



智頭病院

答 時間切れとなり無回答。

廃屋等の解体撤去の促進について

答 所有者に適正な維持管理を求めていく



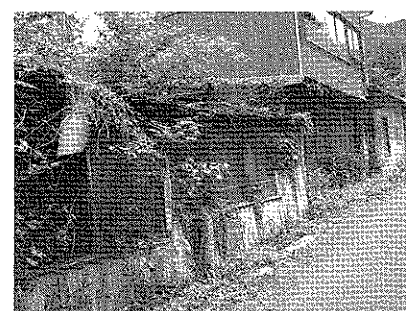
徳永 英太郎

問 町内のあちこちで管理されず廃屋となった建物が多く見受けられる。景観の悪化、防災・防犯機能の低下、火災の発生の誘発、ゴミ等の不法投棄等の誘発、倒壊による周辺住民への損害の恐れなど、多くの問題点が挙げられる。この現状をどのように考えているか。

答 町長 空き家の廃屋化が進行し、管理が行き届かないことによる影響が近隣住民に不安を抱かせたり、迷惑を与えかねない状況が生じつつあることは憂慮している。個人財産であるという観点から、所有者に適正な維持管理を求めていきたい。

問 廃屋対策条例等の設置を行い、行政が関与する考えはないか。

答 町長 今後ますます進んでいく高齢化や少子化によって、管理されない空き家が増えていくことが懸念される。情報収集など先進地自治体の取り組み等を研究したい。



廃屋となった建物

本町の伝統・歴史・文化の継承についてどのような考えを持っているか。

問 小学校統合後の地域とのつながりをどのように考えているか。また、

答 教育長 旧小学校の教員を窓口として6地区との協力体制を築いている。伝統・歴史・文化の継承についても重要であると認識している。住民が学校に積極的に関われる仕組みづくりを前向きに進めたい。本年度、智頭町学校支援ボランティア事業を立ち上げる。

議会の活動を町民の方に直接お知らせする

議会報告会

を開催しました

- 開催日時 5月20日(土) 午後7時～9時
- 開催場所 6地区公民館
- 出席議員 議員12名を2班に分けた構成
- 町民参加総数 46名
- 説明内容 議会の状況・審議状況・委員会等活動状況・平成25年度智頭町当初予算主要事業など



議会報告会の様子

会では、行政要望をたくさんお聞きしました。その内容を精査し、集約したものを町長に通知しました。
※その内容は6・7ページに掲載しています。

参加住民からの行政要望

① 移住定住対策について

・空き家再生事業で補修にかかる費用等の支援体制をさらに充実してほしい。

回答

空き家再生事業は、家主から町が10年間、家屋を借り受け、町自らが必要な改修を行い、本町に移住を希望する若年層に賃貸借を行う事業。町が借り受けをする10年間、補修にかかる経費は町が負担する予定。

また、定住促進対策としての住宅支援事業については、町内業者を通じて家屋の改修を行う場合、100万円を限度として費用の1/2を助成している。事業の拡充については、事業要望を勘案しながら検討していく。

② 農林業対策

・山林の土砂崩れ防止に万全を期してほしい。

回答

山林が健全で良好な状態に維持されるよう、各種造林事業に対する補助などの施策を引き続き推進する。

・鳥獣害対策をさらに充実してほしい。

回答

現在、金網、電気柵などの被害防止施設への助成を行うとともに、イノシシ等の有害鳥獣捕獲の町猟友会への委託や捕獲奨励金制度などによる、有害鳥獣の個体数削減にも努めている。

本年度は、国の新たな事業を活用し、シカの捕獲活動経費の支援を追加するとともに、既設の被害防止施設の高さの嵩上げや設置範囲の拡大による、機能向上に係る経費を支援する。



③ 商工対策

・鳥取道を活用した企業誘致の促進を図りたい。

回答

鳥取自動車道の全線開通を受けてますます関西圏が近くなり、特に本町は鳥取県の玄関口にあたり、地理的にも県内で優位にあると言える。県など関係機関とも連携しながら、本町のPRと企業誘致に努めていきたいと考えている。

・高速通信等を利用した事業提案及び企業誘致は。

回答

高速ひかりネットワークの基盤整備をPRするとともに、現在一部で進めている高齢者の見守りサービスのほか、行政情報伝達や住民サービスへの利用について検討を進めていく。

④ 住環境整備

・LED防犯灯設置促進事業のさらなる促進をお願いしたい。

回答

多くの集落から要望があり、今後予算の増額を行うとともに、次年度以降も制度を継続し、集落からの改修要望に応えていく。

・防災行政無線デジタル化事業について、周辺に配慮して整備してほしい。

回答

本年度から、2カ年計画で防災行政無線デジタル化の整備を行う。本年度は、デジタル化に向けた調査設計を計画しており、町内の電波状況の調査や屋外子局の増設など、町内全域で受信可能となるよう整備を進めていく。

・電波環境（ラジオ、スマートフォン等）の整備をお願いしたい。

回答

携帯電話大手3社のいずれも不感となる集落については、すでに携帯電話格差是正事業の対象となり、解消が図られている。

また、FMラジオについては、現在展開されているインターネット

サービスのことで視聴できる機器がある。

⑤ 地域福祉政策

・在宅介護について、家族に対しての支援ができないか。

回答

介護保険事業の家族介護継続支援事業の中で、介護者の負担軽減及び情報交換の場を提供するため、介護者の集い事業として年2回実施している。

また、経済的支援としては、介護用品の支給を行うため、クーポン券を発行している。

さらには、介護者家族の会を開催し、介護知識の習得や悩みの共有、外部サービスの適切な利用方法などの助言も行っている。

⑥ 社会教育の充実

・広く町民が利用できる、グラウンドゴルフ場の整備についての考えはないか。

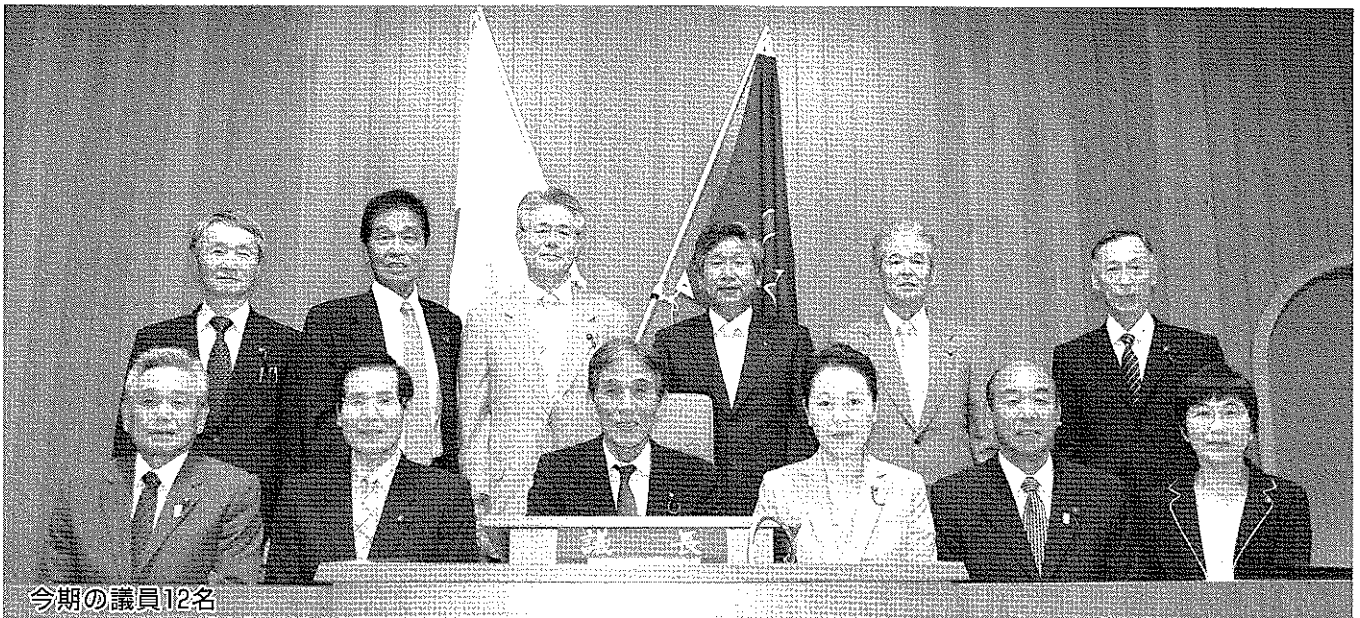
回答

グラウンドゴルフは町の生涯スポーツと位置づけており、協会員も年々増加している状況に鑑み、本年度は町民運動場内の一部に芝生を張った練習グリーンを整備することとしている。

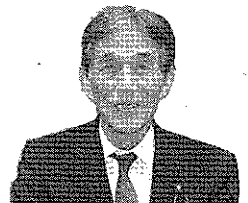
なお、町民運動場及び総合運動場は、町民体育祭や野球など現在の利用状況を勘案して、グラウンドゴルフ場として整備することは好ましくないと考える。

そこで、町民運動場と併せて、旧土師小学校、旧那岐小学校、旧山郷小学校なども引き続き町民のグラウンドゴルフ場として活用いただきたい。

・智頭枕田遺跡の出土品などが常設展示できる、民俗資料館などの設置の考えはないか。



今期の議員12名



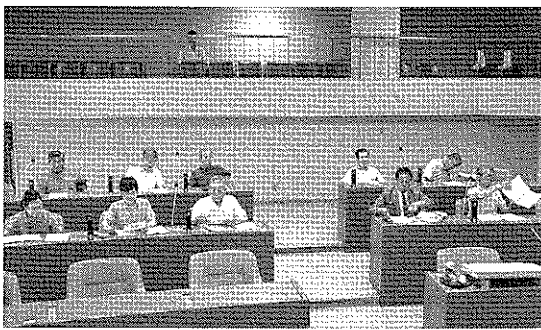
議長
西川 憲雄

この4年間を振り返ってみて、多くの出来事は広報等で町民の皆様にお伝えして来ましたが、もう一度述べてみたいと思います。

広報では、年4回の発行もさることながら、出前広報という直接住民の方へ出向いて議会の活動をお知らせする機会を作りました。また、議会基本条例を策定し、『町民との約束』という位置付けで議会のあり方を定めました。定例会においても本会議制（多くのことは本会議において発言し、町民に対して開かれた議会）を採用し、活発な議会が生まれてきたと思います。

特に若者定住・雇用、小学校改修、中学校改築は、各委員会で十分に研究・協議し、議会全体で議会の統一した考え方を作り出してきました。

ただ、近年の社会情勢を反映して、議会に対する要望は大変厳しいものがあります。住民との意識の差を埋めることも必要なことであり、努力していかなければいけません。が、本当の意味での議会とは、また、将来に向けた議会のありようを今一度考えていただきたい。地域の発展なくして議会の活力は生まれません。町長の日頃発言している、町民・役場・議会が一丸となることがこの町の将来をすばらしいものにするでしょう。本当にありがとうございます。



議場風景

編集後記

今紙が現メンバーで発行する最後の議会だよりとなりました。4年間広報に関わらせていただいたことは、私にとつて本当に良い経験になりました。

毎回全員で、どのようにしたら町民の皆様によく読んでいただけるか、親しみを持っていただけのかを話し合い、県で優秀賞を受賞した時には歓声をあげて喜び合ったのが一番の思い出です。

「ゆく河の流れは 絶えずして しかも もとの水にあらず」
次号から編集メンバーが変わりますが、町民の皆様の変わらないご愛読をお願いいたします。

（平尾）

編集 議会広報常任委員会

委員長 石谷 政輝
副委員長 中野 ゆかり
委員 平尾 節世
委員 田中 潔
委員 谷口 雅人
発行責任者 議長 西川 憲雄